

令和 3 年 6 月 7 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00498

研究課題名(和文)『仏文上海日報』(1927-1945)を巡る日・仏・中の文化交流

研究課題名(英文)Cultural exchanges between China- France-Japan through Le Journal de Shanghai

研究代表者

趙 怡 (ZHAO, Yi)

関西学院大学・経済学部・教授

研究者番号：10746481

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：上海フランス租界で発行された仏語紙Le Journal de Shanghai (1927-1945、中国語題名『法文上海日報』)を巡る中・仏・日の文化交流について考察した。文化欄に掲載された中日両国の文学、芸術(音楽、美術、映画、演劇)、文化風俗などに関する記事を精査し、シャルル・グロボワ、クロード・リヴィエール、徐仲年とそのフランス人妻、キク・ヤマタなどの主な執筆者の経歴や貢献を究明した。長年埋もれていたこの貴重な史料への多言語・多領域横断の考察を通して、20世紀前半における中・仏・日間の文化交流の実態を浮き彫りにし、フランス語資料による研究が極めて不足だった上海租界研究に一石を投じた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の上海租界研究は、フランス語資料を用いてフランス租界に焦点を当て、しかも文化に的を絞ったものは僅かであり、Le Journal de Shanghaiに至っては専門家さえ知るものが少ない。本研究で新聞の文化欄を精査し、文学、芸術、文化風俗に至るまで多分野を横断的に考察した。また仏中日の一次史料を多用しながら、三か国の主な執筆者たちの生い立ちと貢献を考察した。研究対象に「3点測量」の方法を取り入れただけでなく、研究過程においても、三か国の研究者と交流を深めながら、日本語と中国語による論文と報告を中日両国で多数発表した。これまでの上海租界研究とは一線を画す、独自の研究であると自負できる。

研究成果の概要(英文)： Le Journal de Shanghai, a french newspaper published in the French Concession in Shanghai during 1927-1945, has been running many important articles on both Chinese and Japanese literature, art, music, movies, theaters, customs, etc. The authors such as Charles Grosbois (1893-1972), Claude Riviere(1882-1972), Sung-Nien Hsu (徐仲年or徐頌年, 1904-1981) and his wife Suzanne (Suzanne Roubertie, 1903-?), Kikou Yamata (1897-1975) greatly contributed to these articles and were the key persons as well in promoting cultural exchanges. Nowadays however, even Shanghai history scholars know little about the newspaper neither these persons.

I tried to list and discuss these articles at first, then investigate the important authors' backgrounds. Based on French, Chinese and Japanese historical documents, I tried to describe the facts in detail, and shed light on the functioning of a cultural network between Paris, Shanghai, and Kyoto or Tokyo during the first half of the 20th century.

研究分野：比較文学・比較文化

キーワード：上海フランス租界 『法文上海日報』 Le Journal de Shanghai 中・仏・日三か国の文化交流 関西日仏学館

1. 研究開始当初の背景

上海租界史研究において、中国では反帝国主義・反植民地主義の立場から批判的に行われ、日本では日本人居留民への関心から行われた傾向があった。イギリス人中心に運営された共同租界と、フランス専管によるフランス租界が並立したなか、日本の進出と占領に伴い、多い時には10万人もの日本人が上海で暮っていたからである。近年では上海における欧米外国人居留民の研究、とりわけユダヤ人や白系ロシア人に関する研究も盛んになったが、言語の壁もあり、フランス租界に対する研究は比較的遅れている。

また従来の租界史研究は政治経済の分野に集中し、文化芸術への関心が不足しており、多分野を横断するものはなおさら少ない。国際関係においても二か国間の研究が多いものの、三か国以上の関係に注目した研究はあまり見られない。しかし多国籍多文化が融合・雑居する上海を研究するには、多言語・多領域横断が不可欠である。この点から見れば、フランス租界にあるライシヤム劇場 (Lyceum Theatre、蘭心大戲院) を切り口として、租界に発行されていた中・日・英・仏・露各国語の新聞史料を精査したうえ、歴史、文学、音楽、演劇の各方面からアプローチした共同研究 (2011-2016年度) は画期的と言える。研究成果としても2015年に中日両国でそれぞれ大橋毅彦・趙怡・榎本泰子編『上海租界与蘭心大戲院』(上海人民出版社) 大橋毅彦・関根真保・藤田拓之編『上海租界の劇場文化』(勉誠出版) を刊行し、好評を得たのである。

上海租界の外国語新聞といえば、従来筆頭に挙げられたのは North China Herald (『北華捷報』) や North China Daily News (『字林西報』) などの英字新聞であり、近年は『大陸新報』などの日本語新聞も注目されつつある。対して仏語紙『ル・ジュールナル・ド・シャンハイ』(Le Journal de Shanghai, 1927-1945) は発行数が少なく、所蔵場所も限られ、かつ長年門外不出だったため、これまでの上海史研究においてはほとんど看過されてきた。ライシヤム研究班はこの新聞の所在を突き止め、フランス国立図書館(BnF)と交渉を重ね、所蔵紙の全てをデジタル化させることに成功した(2012年)。現在 BnF は紙面のデータをホームページに公開し、世界の研究者からも注目を集めている。

研究班の主要メンバーだった代表者はフランス語新聞におけるライシヤム情報の解読や、フランス国立図書館(BnF)との連絡と交渉を担当した。そして6年間にわたる紙面への精査を通して、1927年から1945年まで、フランス租界の情報を全方位的かつタイムリーに発信し続けていたこの新聞はフランス租界研究に不可欠な史料宝庫であり、かつアジア文化を重視する豊富で良質な文化欄を持つことが分かった。また日本との関係も密接であり、豊富な日本関連の記事を掲載している。とりわけ英字新聞がほとんど停刊に追い込まれた太平洋戦争期においても発行を続けており、戦時下の上海を交戦国以外の、「第三者」の目を通して知りうる、極めて重要なメディア史料であることも認識できた。

従って代表者はライシヤム研究を終了した後、フランス語新聞に特化した独自の研究を着想し、本研究を始めた次第である。なお科研費を申請した時点では原題の Le Journal de Shanghai を「仏文上海日報」と訳して使用したが、1932年より「法文上海日報」(「法」はフランスの意) という正式な中国語題名があったことを考慮し、今後は新聞の標識を「ル・ジュールナル・ド・シャンハイ」または「法文上海日報」と記す。現時点で判明できた所蔵状況は以下である。

・フランス国立図書館(BnF)(1928年1月-1940年5月 ほぼ欠落なし。HPにて公開中。検索機能なし。<http://gallica.bnf.fr/ark:/12148/cb327989155/date>)

・上海図書館徐家匯蔵書楼(1927年12月-1944年3月 欠落あり、個人撮影のみが許可。デジタル化進行中)

・京都大学文学研究科図書館(1942年4月-1944年11月 欠落あり、業者委託撮影のみ)

2. 研究の目的

『法文上海日報』を巡る中・仏・日三か国間の文化交流を明らかにすることを本研究の目的とする。豊富な文化欄に掲載された中日両国の文化芸術に関する記事に焦点を置き、内容の精査と共に新聞の編集方針と主な執筆者について考査する。同時期中の日英各言語の新聞雑誌とも比較し、各国の政治文化が交差衝突する歴史背景も視野に入れつつ、太平洋戦争勃発前後における紙面内容の変化にも注目する。長年研究対象の圏外に置かれてきたこの新聞への多言語・多領域横断の考察を通して、20世紀前半における文化交流の実態を浮き彫りにし、フランス語資料による研究が極めて不足していた上海租界ないしアジアの歴史文化史研究に新たな一幕を開きたい。

3. 研究の方法

前述した三つの所蔵館から得た新聞紙面と、上海档案馆、上海図書館、フランス外交文書館、関西日仏学館などから得た史料を中心に調査を進めた。具体的には以下のように進めた。

①日曜特集を中心に、『法文上海日報』に掲載された中日両国の文学、芸術（音楽、美術、映画、演劇）文化風俗などに関する記事を精査し、初歩な一覧表を作成した。また同時期に刊行されていた中・日・英各国語の新聞雑誌との比較分析も行い、特に太平洋戦争勃発前後における紙面内容の変化にも注目した。

②中・仏・日三か国の関連史料を通して、主な執筆者と関係者について考察した。とりわけフランス租界公董局の教育局局長で長年音楽評論欄を担当していたシャルル・グロボワ（Charles Grosbois, 1893-1972）、フランス語ラジオ局の局長で、中国の芸術文化について多彩な記事を發表したクロード・リヴィエール（Claude Rivière, 1882-1972、本名 Alice Beulin）らの生い立ちと貢献度についての調査は大きく進展した。また執筆陣にはアジア文化を愛してやまなかったフランス人だけでなく、フランス語が堪能な、アジア各国の著名な文化人も加わっていた。その中に「里昂中法大学」（リヨン中仏大学）で博士号を取得したフランス文学者の徐仲年（1904-1981）とその妻 Suzanne Hsu（1903-? 本名 Suzanne Roubertie、中国名胡書珊）の活躍や、駐リヨン領事の父とフランス人の母を持ち、フランス語の小説を多数創作して好評を得たキク・ヤマタ（Kikou Yamata, 1897-1975）の戦時中の一連の記事などについても精査した。共にアジアの文化に深い関心を示し、東西の文化交流に多大な貢献をしたものの、今日ではほとんど埋もれてしまったこれらの文化人の生い立ちと作品、そして相互の関係性について追跡し、再評価を行った。

③新聞の創設経過と編集方針についても考察した。アジアの文化芸術を重視し、中日の文化人も多く参与しえたことは、1910-1920年代において、中仏両国が政府間レベルで行っていた一連の教育合作事業と文化交流活動が背景にあり、前述したグロボワや徐仲年らはすなわちその中心的な存在だった事実も掴んだ。中でも長年アリアンス・フランセーズの中国総代表と公董局所轄のフランス学校校長を兼務し、上海における中仏文化交流のプラットフォームだった「中法聯誼会」の創設と活動に尽力したグロボワの影響力と貢献が絶大だった。

④『法文上海日報』は1945年3月に終刊したとされたが（1944年12月以降の紙面は所在不明）1945年9月に、グロボワを含む一部の関係者は後続紙 *Le Courrier de Chine* を創刊し、その後二つの形態に変えて1949年9月まで発行を続けた。『法文上海日報』以上に知られていない、相關研究も完全に空白であるこれらの後続紙についても調査ができた。それを通して内戦期におけるグロボワの活動、ならびにフランス居留民の文化活動についても知ることが多かった。

⑤グロボワは1951年前後上海を離れてから、1953年に来日し、1959年フランスに帰国するまで京都の関西日仏学館（現アンスティチュ・フランセ関西）館長を務めた。関西日仏学館の歴史を調査している京都大学人文研究所立木康介教授が率いる研究班からの協力も得て、館長時代におけるグロボワの経歴と貢献についても調査し、多くの成果を得た。

このようにして、代表者はフランス、中国、そして日本三か国の一次史料をできるだけ発掘し、『法文上海日報』をめぐる文化交流の様相を全面的に考証した。さらに国籍や戦争の壁を乗り越えた文化交流から残された大きな文化遺産が、パリ・上海・東京・京都を結ぶ文化ネットワークを通していかに戦後まで繋がったかについての探求も試みた。

4. 研究成果

代表者はライシャム研究の段階において、すでに『法文上海日報』に掲載されたライシャム劇場に上演されていた中国芸術について考察した（「ライシャム劇場における中国芸術音楽 - 各国語の新聞を通して見る」、前掲『上海租界の劇場文化』73-86頁、「蘭心大戲院与中国音楽」・「東西芸術融合交匯的文化大舞台」、前掲『上海租界与蘭心大戲院』137-172頁、295-317頁）。また本研究の申請段階においても、2016年夏に上海社会科学院にて行われた国際シンポジウムを機に「一份努力伝播亚洲文化的法文報紙—*Le Journal de Shanghai*（『法文上海日報』）」を報告し（上海社会科学院・ライシャム研究会共催国際シンポジウム「文化空間与文化融匯」大会論文集 305-321頁）また「研究上海法租界史不可或缺的史料宝庫—《法文上海日報》（*Le Journal de Shanghai*, 1927-1945）」と題する長編論文を馬軍・蒋傑編『上海法租界史研究』第2輯、2017年12月に發表した。上海研究の専門家さえほぼ知らないこの新聞の文化欄を中心に学術的な焦点を当てたのは中国・フランス・日本を通しておそらく代表者が初めてであり、注目を呼んでいる。

本研究では上海のフランス租界史研究の専門家たちと連携して、密接な情報交換を行う一方、立木研究班からの協力も得て、多くの関係資料を得た。さらに2019年に関西学院大学へ教授として赴任し、研究環境も飛躍的に向上した。その年に中日両国で合わせて5回の研究発表をしただけでなく、夏にはかつてのライシャム研究の仲間で大阪音楽大学の井口淳子教授と共にフランスへの現地調査も果たした。立木研究班からの事前教示もあり、パリとナントにあるフランス外交文書館に赴き、短時間にそこで眠っていた大量な一次史料を「発見」することに至った。これらの調査に基づいて計6点の論文を執筆した（掲載論文一覧参照）。

しかし2020年に新型コロナウイルスのパンデミックの影響により、予定されていた上海とフランスへの現地調査とシンポジウムや学会発表が悉くキャンセルされ、また編集者や出版社の事情により提出済みの論文の大半は刊行が大きく遅れた（現時点で共に2021年内に刊行予定）。今後はひとまず中国語の論文を集めて加筆増補したうえ単著として出版することを目指し、同

時に日本語、さらにフランス語や英語での発信も積極的に行うことを考えている。

なお 2019 年夏のフランスでの現地調査から得た史料を活かすべく、代表者の提案と努力により、かつてのライシャム研究班の女性メンバー3人の榎本泰子、井口淳子、趙怡が再結成し、帝京大学准教授、日仏会館の研究員でもある野澤丈二氏が加わり、「上海フランス租界を結節点とする日仏中三か国の文化交流史」をテーマにする基盤研究(B)が 2020 年に採択された(代表者、榎本泰子)。従って本研究の最終年度では、経費がほぼなく、現地調査も全くできなかったとはいえ、二つの科研項目を連動させたことによって、史料の精査に集中し、多くの成果を得たのである。とりわけグロボワとアリアンス・フランセーズ、ならびに関西日仏学館との関係について多くの発見を得て、「上海フランス租界と関西日仏学館 - 第 7 代館長「高博愛」(Charles Grosbois)を中心に」(京都大学人文科学研究所『人文学報』第 117 号、2021 年 6 月)を発表することができた。また 2021 年 3 月に上梓した単著『二人旅 上海からパリへ 金子光晴・森三千代の海外体験と異郷文学』(関西学院大学出版会)の第 12 章にも、徐仲年の文学活動について論じた(454-462 頁)。

また代表者の呼びかけに応じて、『法文上海日報』や上海フランス租界に関心を持つフランス語とフランスの事情に精通している研究者や研究協力者も多く現れ、彼らの加入によって、『法文上海日報』の紙面精査とフランス外交文書館から得た膨大な史料に対する解読と分析のスピードと質も一気に向上した。かつて本研究を申請したとき、代表者が「ひとまず個人研究としてスタートし、将来実現する大規模の国際共同研究への布石にしたい」と期待したが、それは確実に実現されつつある。コロナウイルスのパンデミックによる世界の混乱と断絶が続いている中、戦時下の対立に負けず、東西の文化交流に精一杯尽力していた 100 年前の先人たちの姿を前に、自身の研究の意義を再認識することもできた。今後はさらなる共同研究と多言語による発信を通して、内外における『法文上海日報』ないし上海フランス租界への関心を高め、関連研究を大いに充実させることができるように努めたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 趙 怡	4. 巻 236
2. 論文標題 上海から京都へ 「高博愛」(Charles Grosbois)の戦後	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 【アジア遊学】『上海の戦後 人びとの模索・越境・記憶』	6. 最初と最後の頁 pp.105-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 趙 怡	4. 巻 第117号
2. 論文標題 上海フランス租界と関西日仏学館 - 第7代館長「高博愛」(Charles Grosbois)を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都大学人文科学研究所『人文学報』	6. 最初と最後の頁 pp.123-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 趙 怡	4. 巻 -
2. 論文標題 上海のフランス語新聞が報じた中国近代美術 - 林風眠と杭州国立芸術院を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 【アジア遊学特集】『日本からみた東アジア近代美術』(仮題)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 趙 怡	4. 巻 第4輯
2. 論文標題 従上海到京都 - 高博愛 (Charles Grosbois) 与中・法・日文化交流	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上海法租界史研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 趙 怡	4. 巻 第4輯
2. 論文標題 『新法蘭西評論』(NRF)之中国新文学介紹 - 新文化運動与中法文化交流	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 南京大学『新学衡』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 趙 怡	4. 巻 特集
2. 論文標題 一フン(人偏+分)努力伝播亜洲文化的法文報紙 - 《法文上海日報》的週日増刊与東西文化交流	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上海学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計8件(うち招待講演 3件/うち国際学会 4件)

1. 発表者名 趙 怡
2. 発表標題 『新法蘭西評論』(NRF)之中国新文学介紹 新文化運動与中法文化交流
3. 学会等名 「長時段及東亜歴史視野中的 ”五・四” : 百年記念研討会」(東京大学)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 趙 怡
2. 発表標題 上海租界のフランス語新聞が報じた中国電影とスターたち
3. 学会等名 中国ジェンダー研究会例会(立命館大学梅田キャンパス)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 趙 怡
2. 発表標題 上海から京都へ： フランス租界と関西日仏学館&第7代館長「高博愛」(Charles Grosbois)物語
3. 学会等名 京都大学人文研アカデミー2019連続セミナー第2回「京都における日仏交流史----関西日仏学館と上海----京都ルート」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 趙 怡
2. 発表標題 以『上海法文日報』為園地的中、法、日文化交流
3. 学会等名 上海復旦大学外文学院国際文化交流講演(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 趙 怡
2. 発表標題 「緑衣」に描かれた上海モダン・ガールの形象
3. 学会等名 阿部知二研究会秋季研究大会(姫路文学館)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 趙 怡
2. 発表標題 「上海から京都へ 公董局教育処処長「高博愛」(Charles Grosbois)」。
3. 学会等名 日本上海史研究会例会「戦後上海の「体験」 人びとの模索・移動・記憶」(大阪学院大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 趙 怡
2. 発表標題 「從上海到京都 高博愛 (Charles Grosbois) 与中・法・日文化交流」(基調講演)
3. 学会等名 「巴黎与上海之間 第三屆上海法租界史國際學術研討會(上海師範大學)(招待講演)(國際学会)」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 趙 怡
2. 発表標題 「法文報的日本文化報道」
3. 学会等名 「中日学者中日關係交流會」(上海社会科学院)(國際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 趙 怡	4. 発行年 2021年
2. 出版社 関西学院大学出版会	5. 総ページ数 全書590頁中8頁
3. 書名 二人旅 上海からパリへ 金子光晴・森三千代の海外体験と異郷文学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	藤野 志織 (FUJINO Shiori)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------